

2027年5月期 第1四半期 決算補足説明資料

2026年10月



 **室町ケミカル株式会社**
(東証スタンダード 証券コード：4885)

業績

2事業体制への移行後も成長を継続

前年同期（3事業体制）の売上高を上回り、営業利益は大幅に増加

事業

主要商材の販売伸長により両事業で増収・増益

医薬品では輸入原薬、化学品ではイオン交換樹脂関連の販売が伸長

成長 戦略

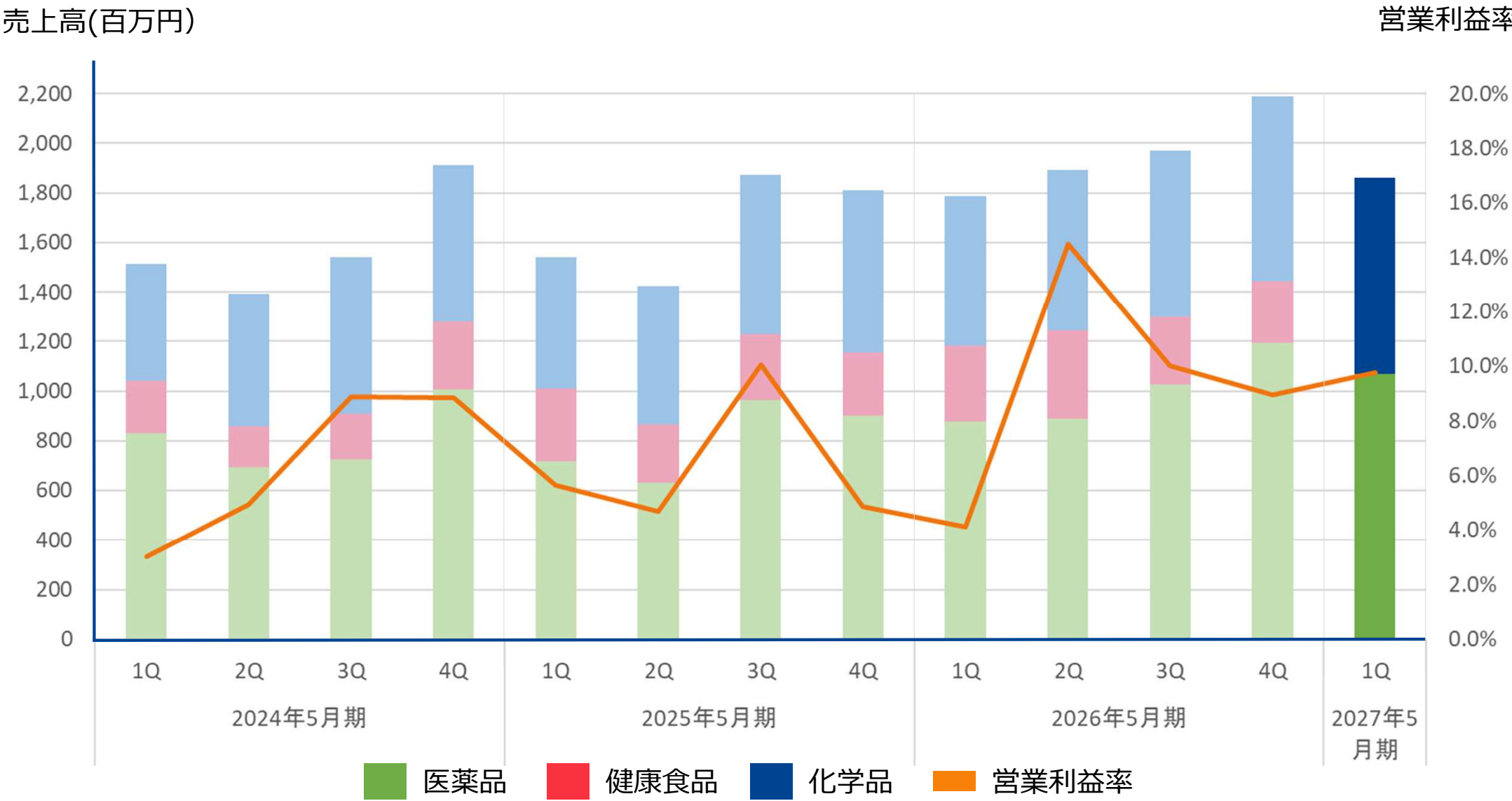
技術力強化に向けた開発環境の整備

医薬品連続晶析装置の導入に続き、化学品開発センターを整備することで技術力を高め、新製品の創出と将来の事業基盤強化につなげる

- 健康食品事業撤退後初となる2事業体制での決算において、前年同期（3事業体制）の売上高を上回り、期初想定に対しても好調に推移
- 原価率は改善し、売上総利益も増加
- 販売費及び一般管理費は前年同期比で減少し、期初想定を下回る水準で推移

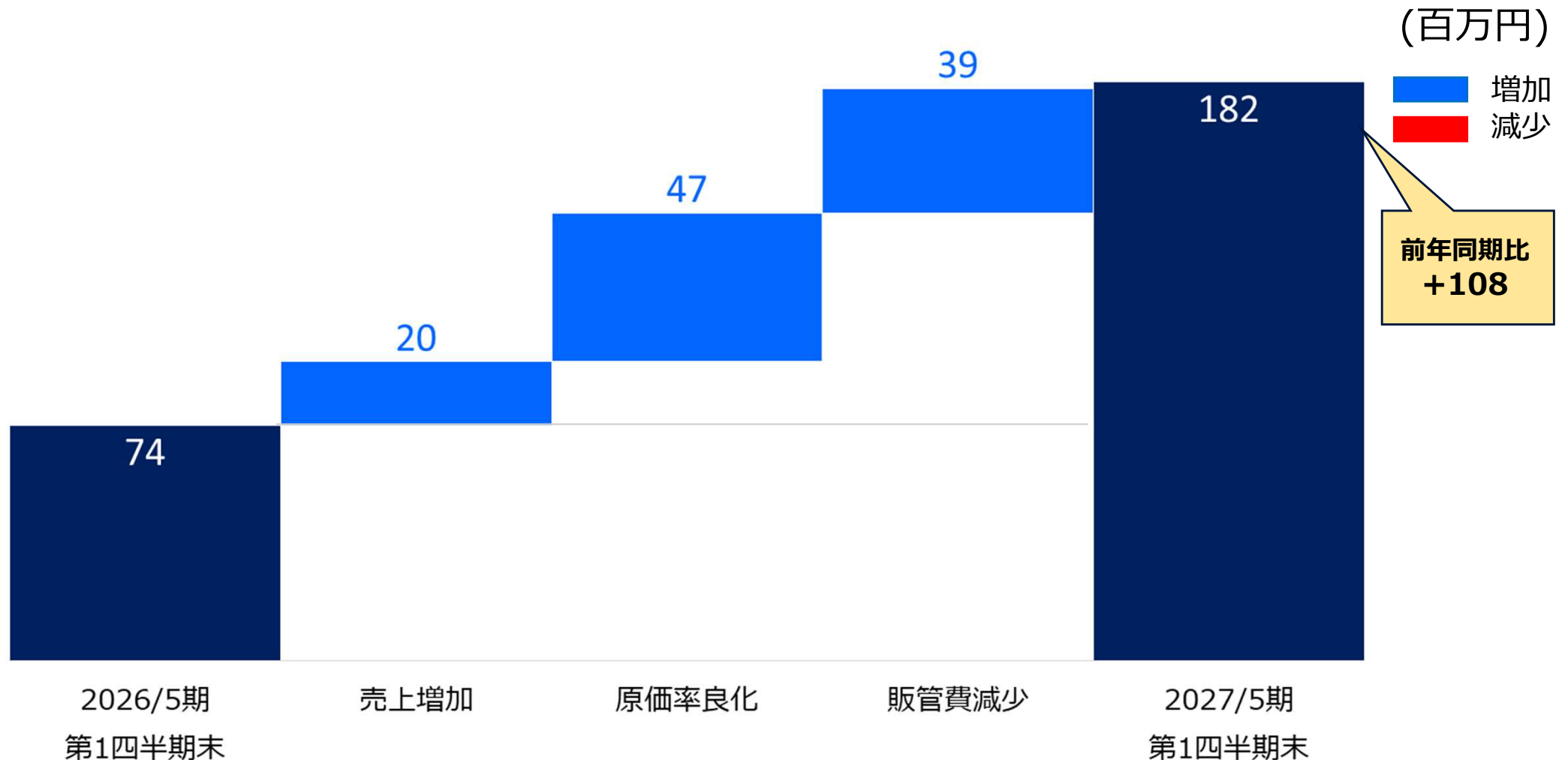
(百万円)

	2026/5期 第1四半期末		2027/5期 第1四半期末		前年同期比	
		構成比		構成比		増減率
売上高	1,787	100.0%	1,861	100.0%	73	+4.1%
売上原価	1,296	72.5%	1,302	70.0%	5	+0.4%
売上総利益	490	27.5%	559	30.0%	68	+13.9%
販売費及び 一般管理費	416	23.3%	376	20.2%	▲ 39	▲9.6%
営業利益	74	4.2%	182	9.8%	108	+144.8%
経常利益	72	4.1%	191	10.3%	118	+161.9%
当期純利益	57	3.2%	142	7.6%	84	+147.5%



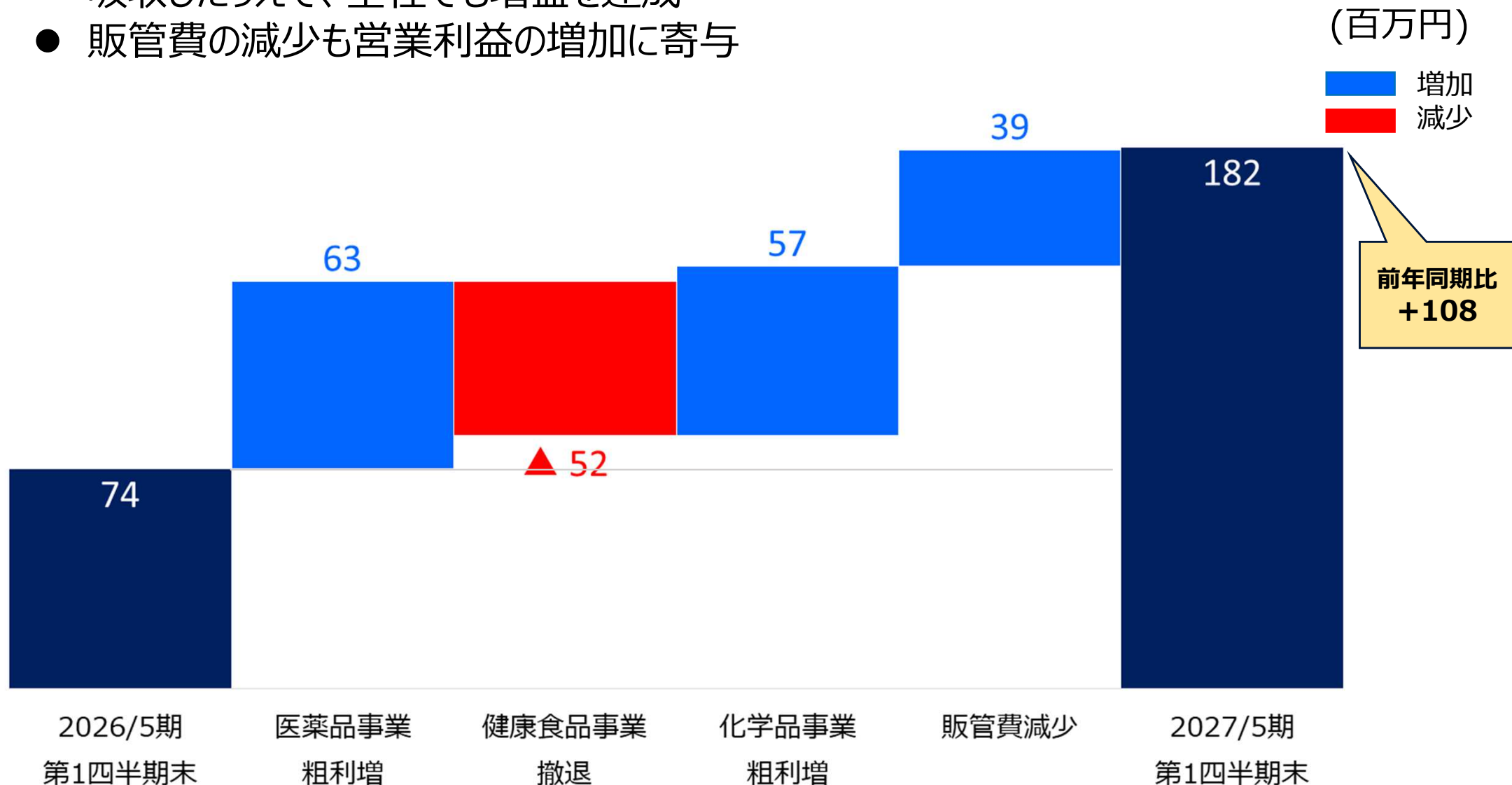
営業利益 増減要因（前年同期比）

- 医薬品事業、化学品事業ともに売上高が増加
- 原価率は健康食品事業からの撤退により改善し、売上総利益が増加
- 販管費は健康食品事業からの撤退により減少



営業利益 増減要因（事業別・前年同期比）

- 医薬品事業、化学品事業ともに増益となり、健康食品事業撤退による減益影響を吸収したうえで、全社でも増益を達成
- 販管費の減少も営業利益の増加に寄与



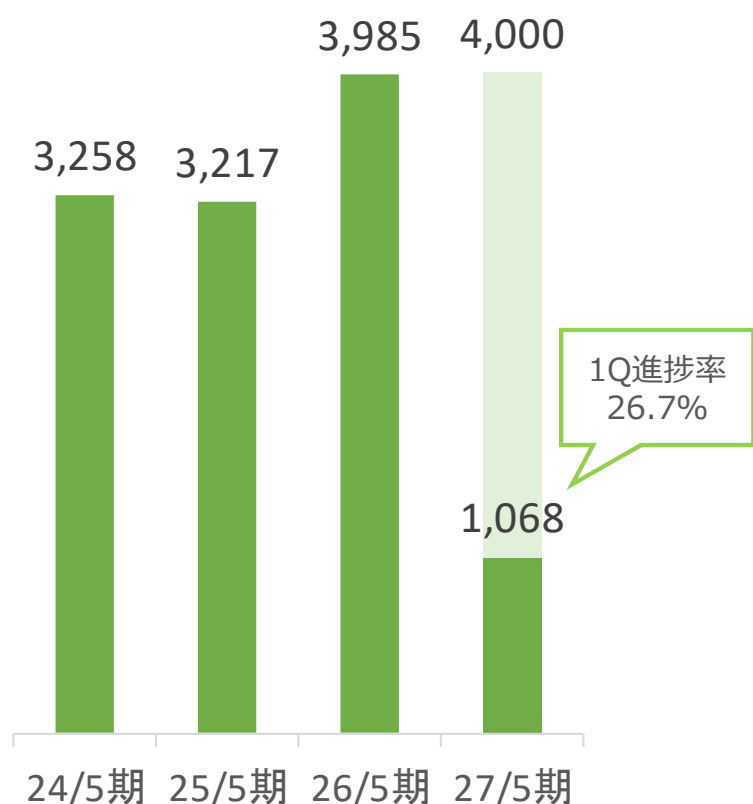
売上高
1,068百万円

(前期比)
(121.7%)

営業利益
142百万円

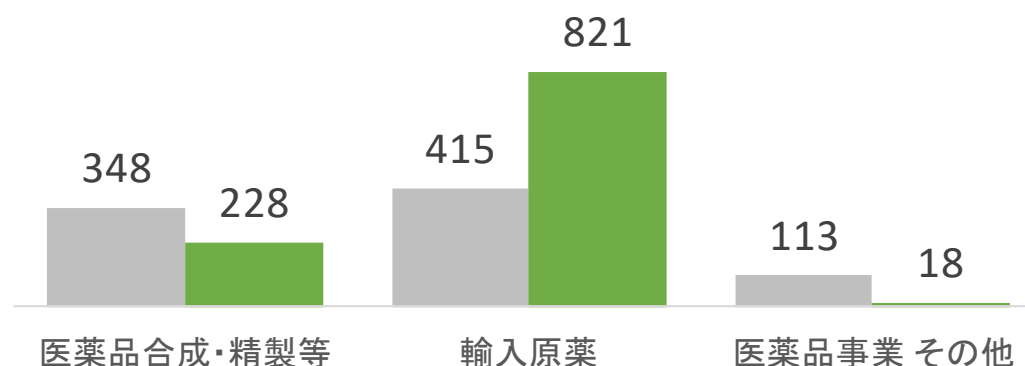
(前期差額)
(+54百万円)

■売上高推移 (単位：百万円)



- 輸入原薬の売上高は、抗てんかん薬用原薬及び抗ヘルペスウイルス薬用原薬の販売が前期から引き続き好調に推移したことにより前期比で倍増
抗ヘルペスウイルス薬用原薬は、通期にわたり需要の拡大を見込む
- 前々期から販売を開始した胃腸薬用原薬をはじめ、その他の既存輸入原薬の販売も堅調に推移
- 商社機能とメーカー機能を活かした営業活動を展開し、新規輸入原薬の取り扱い拡大と、合成・精製等の自社製造案件の獲得及び早期立ち上げに取り組む

■商材別売上高 (単位：百万円・■：前期 ■：今期)



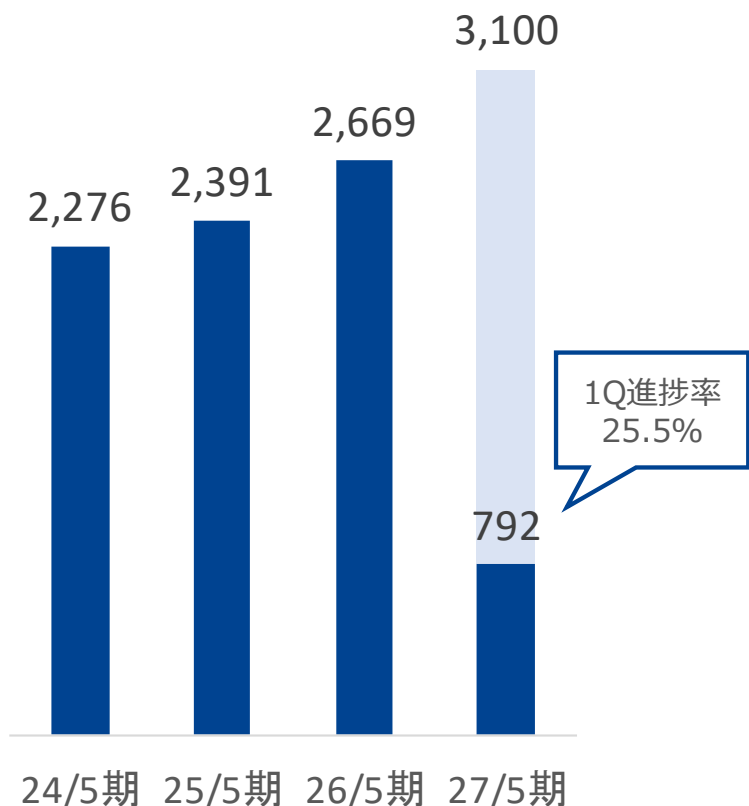
売上高
792百万円

(前期比)
(130.8%)

営業利益
41百万円

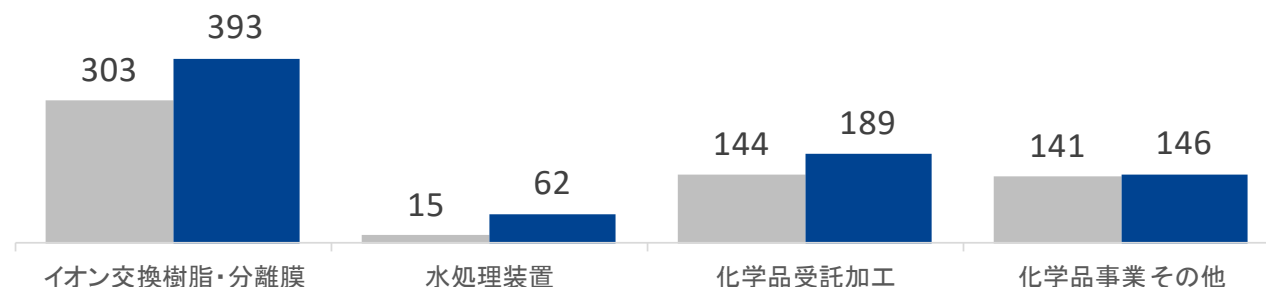
(前期差額)
(+33百万円)

■売上高推移 (単位：百万円)



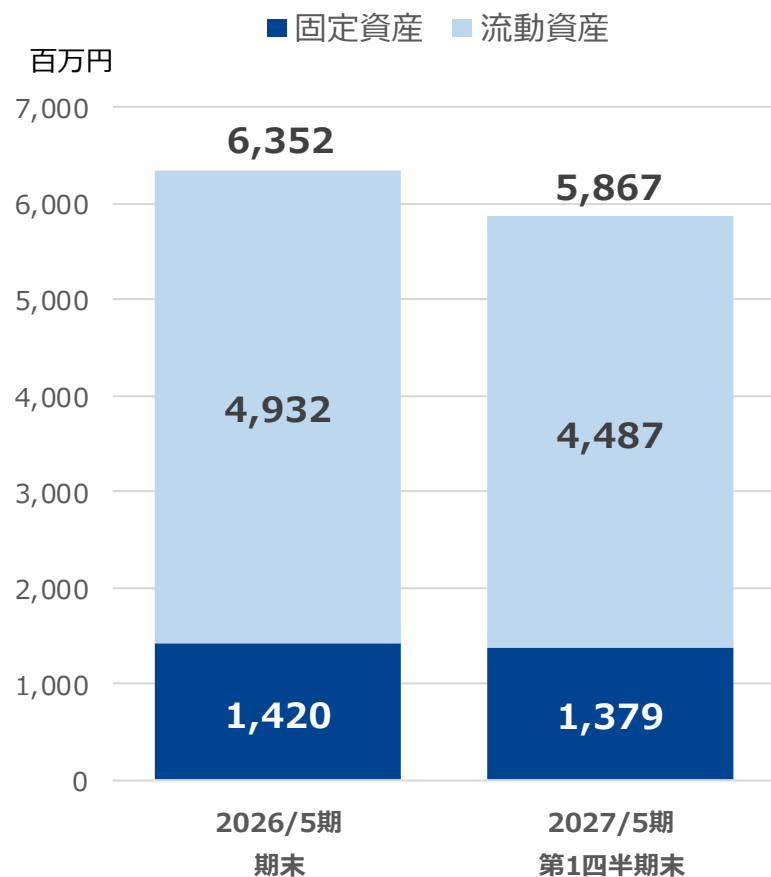
- 半導体関連市場の活性化を背景に、イオン交換樹脂の商品及び自社加工品の販売が伸長し、関連する自社製造装置の売上も計上
- 受託加工品であるアミノ酸精製品の販売も売上高の増加に寄与
コロナ禍後の需要動向を踏まえ、今後の売上拡大が期待される
- 2027年7月の開設に向け、化学品開発センターを整備中
建屋改装工事は年内に着工
検査・分析機能の拡充により開発力を強化し、高付加価値製品の創出を推進

■商材別売上高 (単位：百万円・■：前期 ■：今期)

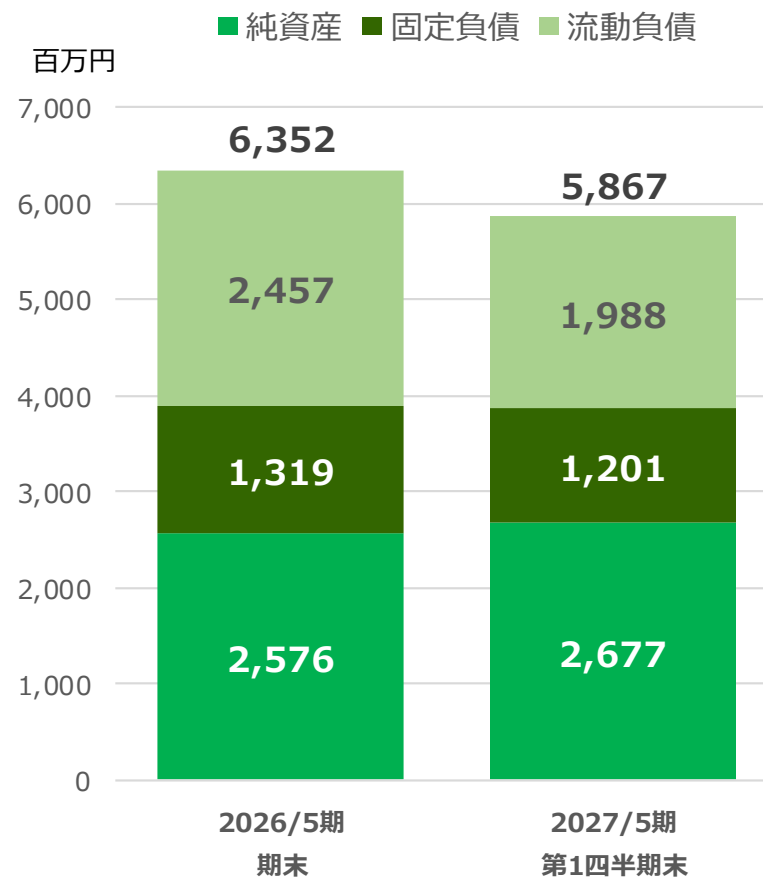


- 未払法人税・買掛金等の減少に伴い、流動負債が減少し、総資産も減少
- 総資産の減少により、自己資本比率は前期末比5.1ポイント上昇
- 化学品開発センターへの設備投資に伴い、今期末に向けて固定資産の増加を見込む

■ 資産



■ 負債・純資産



自己資本比率：45.6%（前期末比 +5.1pt）

- 医薬品事業・化学品事業の売上見込を反映して、第2四半期の業績予想を修正
- 通期については当初発表通り（修正なし）

2027年5月期
第2四半期(累計)

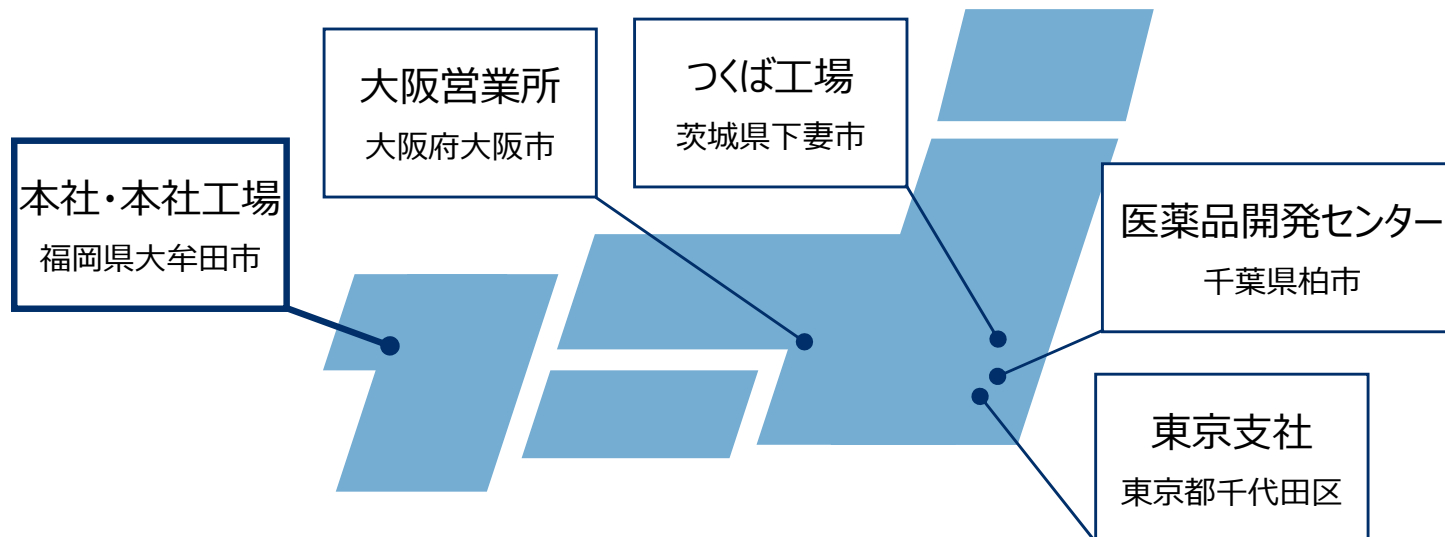
	従来予想	修正予想	修正額
売上高	3,300 百万円	3,500 百万円	+200 百万円
営業利益	150 百万円	250 百万円	+100 百万円
経常利益	120 百万円	240 百万円	+120 百万円
当期純利益	90 百万円	160 百万円	+70 百万円
中間配当金	13 円	13 円	予定通り

参考資料



会 社 名	室町ケミカル株式会社 (MUROMACHI CHEMICALS INC.)
代 表 者	代表取締役社長 青木 淳一
設 立	1947年7月（創立：1917年1月）
資 本 金	143,172千円
従 業 員	205名 ※2026年5月末現在

< 拠 点 >



創立当時 (1917年頃)



大牟田市 本社工場

「医薬品」「化学品」の2事業

医薬品事業

医薬品原薬（薬の有効成分）の
製造・販売



原薬の製造



原薬の精製・異物除去



海外原薬の輸入販売



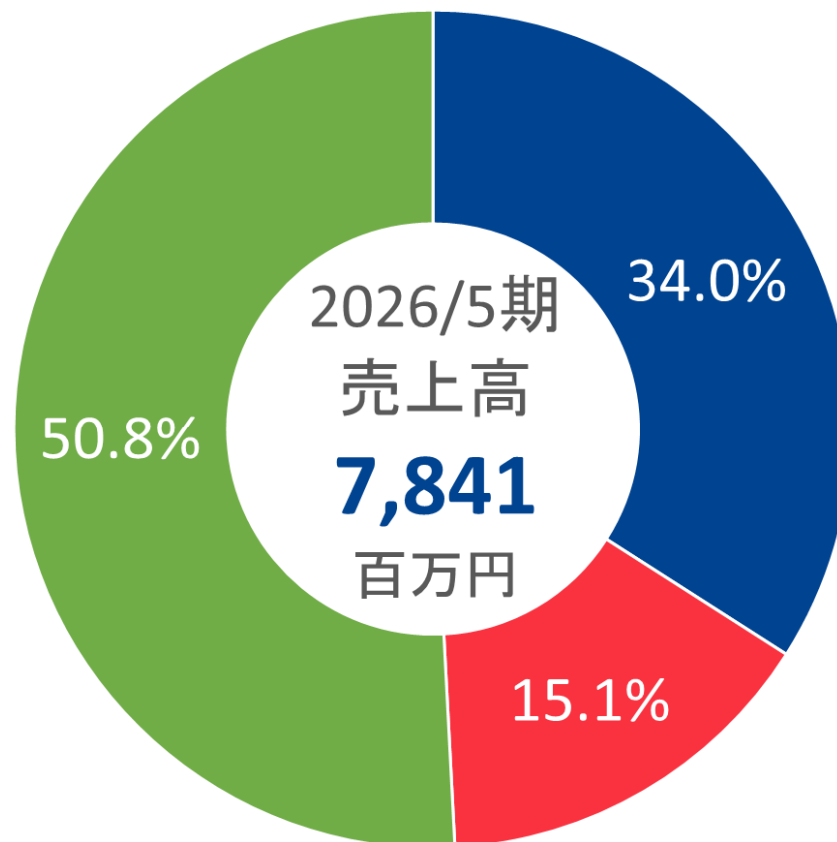
連続晶析装置による製造



スプレードライヤー



医薬品用樹脂塔



健康食品事業

スティックゼリータイプなどの
健康食品の企画・製造

※2026年5月期末 事業撤退完了

化学品事業

液体から不純物を取り除く
液体処理製品の販売・加工



イオン交換樹脂



分離膜



水処理装置



イオン交換樹脂再生設備



ムロマック®ミニカラム



PFAS除去装置

< パーパス >

「健康」と「環境」をテーマに、社会へ貢献する



< 経営理念 >

私たちは人々との出会いを大切にし、
常に新たなチャレンジと実現化の努力により
社会に貢献する企業を目指します。

明治期 福岡県須恵町において「須恵目薬」の製造・販売開始

1917年 福岡県直方市に「大洋製薬合資会社」を設立

1924年 福岡市東区に移転『天洋社』と改称

1938年 福岡市南区に移転。

1944年 戦時企業整備（県内の製薬会社を1社にする制度）により会社を解散し、一時廃業

1947年 戦後、「鉄ペプトン製薬有限会社」として再設立

1948年 販売会社として、「株式会社天洋社」を再設立

1950年 「株式会社天洋社」を「鉄ペプトン製薬有限会社」に合併し、社名を「天洋社薬品有限会社」とする。

1952年 社名を「天洋社薬品工業株式会社」と改称

1971年 ムロマチグループに参入

1996年 福岡県大牟田市に本社工場を新築移転

1998年 『室町ケミカル株式会社』に社名変更

1999年 医薬品第二工場を新設 ISO9001認証取得

2003年 本社隣接地に物流倉庫新設

2005年 『天洋社薬品株式会社』設立 東京支店開設

2006年 健康食品製造工場操業開始
表面処理工場操業開始

2009年 新事務所竣工

2010年 コンパウンド工場操業開始 表面処理事業より撤退

2010年 室町(上海)商貿有限公司設立

2011年 第三医薬品工場新設 尿素水工場操業開始
ムロマチテクノス株式会社より、つくば工場譲受

2013年 新勝立倉庫竣工
東京都千代田区神田駿河台に東京支店を移転

2014年 『東進ケミカル株式会社』の全株式を取得し
100%子会社化
ムロマチテクノス株式会社を吸収合併

2016年 つくば工場にインキ接着剤工場を新設
機能性樹脂コンパウンド事業より撤退
大牟田本社に医薬品ゼリー工場を新設

2017年 東進ケミカル株式会社を吸収合併
大牟田本社に医薬品合成工場を新設

2018年 天洋社薬品株式会社を吸収合併

2019年 埼玉工場を閉鎖 室町(上海)商貿有限公司を清算

2020年 埼玉県和光市に埼玉開発センターを開設

2021年 東京証券取引所JASDAQ(スタンダード)市場に上場

2024年 埼玉開発センターを千葉県柏市に移転し、医薬品開発センターと改称

2026年 健康食品事業より撤退

長年培った技術を活かし、お客様の事業をサポートします。

医薬品 事業

メーカー機能と商社機能を併せ持ち、原薬に関する多様なサービスを提供

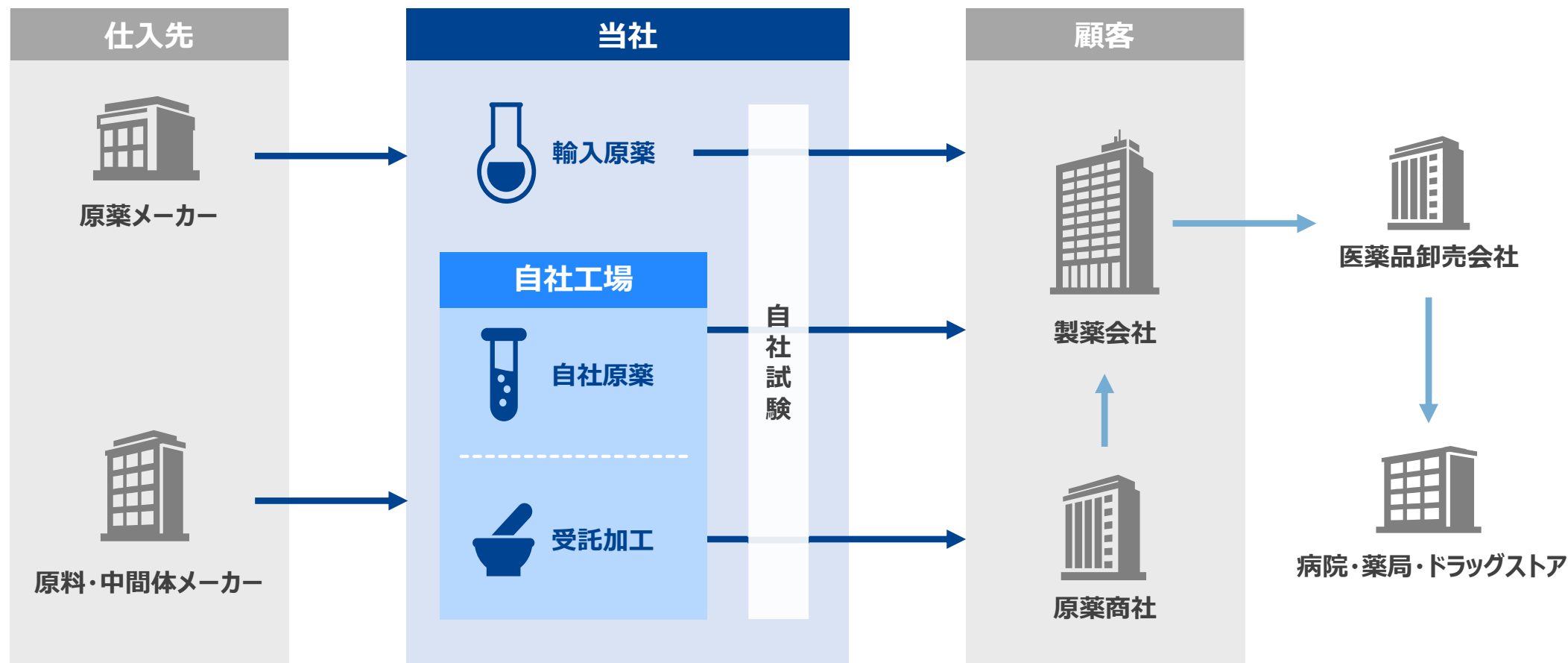
品質と価格の両面で顧客ニーズを満たす原薬を調達する「商社機能」と、原薬を製造・加工する「メーカー機能」を併せ持ち、原薬に関するトータルサービス（輸入・製造・加工・分析）を提供します。

化学品 事業

特殊な用途にも対応できる技術で液体処理の課題を解決

排水の処理や薬品の精製などの特殊な用途でも、豊富な製品ラインナップと長年培ってきたノウハウで最適な製品や処理方法をご提案します。

病院や薬局などで提供される医薬品は、有効成分となる「原薬」とさまざまな添加剤からできています。当社の医薬品事業では、この「原薬」の製造・販売を行っています。
当社が取り扱う原薬は、主に医療用医薬品*（ジェネリック医薬品*）向けです。



* 医療用医薬品（医家向け医薬品）

・・・病院で医師の診断をもとに処方してもらう薬のこと。対して、薬局等で購入できる薬を一般用医薬品(OTC薬品、市販薬)という。

* ジェネリック医薬品（後発医薬品）

・・・新薬（先発医薬品）の特許が切れた後、同じ有効成分を使って製造される薬。新薬に比べ開発費用が抑えられるため低価格で提供される。

液体処理に使用される「イオン交換樹脂」や「分離膜」を取り扱っています。目的に適した製品を提案するほか、使用条件に応じた加工にも対応します。

さまざまな業界の製造や開発の現場で使用する純水や軟水の製造、薬品の精製、排水の処理など、活用される場面は多岐にわたります。

このほか、接着剤やペーストなどの機能材料の加工・販売も行っています。

